

新 年



持続可能な

すさきを

次世代に

須崎市長

楠 瀬 耕 作

皆さま、あけましておめでとうございます。ご一同様お揃いで健やかな新春をお迎えになったことと存じます。

さて昨年は、須崎市制施行60周年の節目の年でありました。この60年間、先達の方々のご努力により隆興してきた本市も、全国的に進んでいる「少子高齢化・人口減」「自治体財政の悪化」等の局面を迎えており、次世代の須崎市を担う子どもたちにもどのような形でつないでいけるかが大きく問われています。

例えば全国の出生率を見ると、最高は沖縄県の1・94、最低は東京都の1・13と、都市部ほど一人の女性が産む子どもの数が少なくなっています。幼児保育の待機児童数を見ても、都市部ほど子育て環境は悪い傾向が出ています。つまり、人口の再生産性が極端に低い東京に地方から大学教育や仕事を求め若者が流入している訳です。この状況が続けば、人口の再生産性が高い地方も都市部へ若者を送り出す力が弱まり、そうなると東京は高齢化に拍車がかかり都市部の人口減が顕著になる、これがいわれている「東京一極集中の弊害」「地方創生の必要性」の背景の一つです。まだまだ薄明りの段階ですが地方に光が向いてきているような感もあります。

しかし、国も財政難であえいでいます。受け身であつては、光は差してきません。「持続可能なすさき」として次世代に引き継ぐために県内最下位の財政を再建させながら次の点に注力していきたいと考えています。

- ①地域自治力の強化／自分の住む地域に自信と誇りを持ち連携を深め自立性を高める。それにより英知と文化が生きる地域を目指す。
- ②産業振興／須崎市産業振興計画により新たな雇用・所得・交流人口の拡大を目指す。
- ③防災対策の進展／応急復旧計画の推進。自主防災組織・消防団・防災教育の強化。
- ④子育て教育環境の計画的な改善／保育・小中学校教育の質の向上を目指した統廃合計画の策定と推進。
- ⑤人材育成／次世代を担う人材育成。

これらの切り口によりほかの分野にも相乗効果、プラスのスパイラルが生じるよう努めていきたいと思っております。

本年も市民の皆さまにとって、ご健勝で幸多い素敵な一年になりますよう、お祈り申し上げます。

平成27年1月